

## プロジェクトを終えて就職活動に対して感じること

就職活動が不安だったり自分のことなのに面倒に感じてしまったりと、なかなか前向きになれない……。時にはそんな気持ちになることがあるかもしれません。甲南大学が主催する「とっとりキャリア教育学生プロジェクト(\*)」に参加した甲南大学生が、就職活動について本音で話し合いました。

\*「とっとりキャリア教育学生プロジェクト」とは、他府県と比較して全国からの移住者が多い鳥取県にて、地域の社会問題の解決や地域活性化等に取り組む移住者やその関係者にインタビュー調査を実施して、鳥取県での暮らしや働き方の魅力や課題を把握するとともに、大学生のキャリア形成に必要なことを探る甲南大学が主催するプロジェクト型学習をいう。

### <参加メンバー>

三年次生：河合新(経済学部)、草加有輝(法学部)

二年次生：福田夢芽(法学部) 大村梓紗(法学部)、柏原江里(法学部)、福田桃子(経営学部)、  
横田桜咲(経営学部)、島村大地(フロンティアサイエンス学部生命化学科)

一年次生：太田若那(経営学部)、野口和史(経営学部)

### <実施日>

2023年10月31日(火)16時30分~17時30分



(2023年11月21日撮影)

### ◎就職活動って？

福田桃子：前半の進行を担当します福田桃子です。みなさんは、就職活動ってどんなイメージがありますか。

柏原:不安で将来のこと考えるだけで頭がいっぱいになってしまって、どうすればいいのか分からない。

複数:そうそう。

福田桃子:いま就職活動している方はいますか。

河合:アプリで探したり、会社の説明を聞くくらい。2生年生でインターンに参加している人はいますか。

大村:参加したいけど、どうやって参加すればいいか分からない。

福田桃子:3生年生でインターンに参加したのは、周りの学生が参加したからですか。

河合:そうですね。もうあと一年しかないという焦りと、3生年生になってようやくメールなどでインターンの知らせが来たからですね。

草加:僕は、選考が早いところもあるから、早めに行動しようと思いました。

福田桃子:2生年生で就職活動している人はいますか。

大村:考えてはいるけど、行動に移せていません。

河合:これが多くの1、2生年生の現状かもしれないね。



(2023年10月31日撮影)

### ◎地方での暮らしや働き方

福田桃子:今回私たちはプロジェクトで鳥取に行ってみて、都市圏だけでなく地方で働く選択肢も

あるということを知りました。地方での暮らしぶりで良いなと思ったことや、気になった点  
はありますか。

島村:おいしい水など都市圏とは違った環境がある。自然が豊かだよね。

太田:起業するとなったら土地を提供してくれるなど、協力的な人が居るのはいいなと思いました。

河合:移住などの手続きをサポートする団体もあって、補助もたくさんあるのはありがたいですね。

柏原:都市は人が多くてしんどいけど、地方は人が少なくて過ごしやすい。どこ行くにも人がいっぱいだし、歩いているだけで人にぶつかったり、カラオケも満席が多くて嫌だなあと感じています。

野口:印象的だったのは、地方では通勤時間の平均が18分と短く、車やバイクで通勤できるのは良いなあとと思いました。

福田桃子:毎朝、満員電車で通うのは大変だよね。

太田:同年代の友達が少ないのは、ちょっと気になるよね。電車の本数も少ないし。免許を持ってない人は、少し暮らしにくいかもしれない。



(2023年10月31日撮影)

### ◎鳥取県で出会った人々のキャリアの重ね方

横田:ここからは、横田が進行します。今まで一般企業に勤めることを当たり前のようになっていたが、鳥取に訪問して自分から起業する道や、転職するという方法もあることを知りました。

皆さんは起業や転職などに関心はありますか。また、このプロジェクトに参加して、就職のイメージはどう変わりましたか。

草加：インタビュー調査の対象者のなかには、エンジニアとして数年働いてから、地方公務員で前職のスキルを生かしているような人もいました。このように、前職と関係のある仕事をたとえば地方で見つけて、これまでの経験を生かすことは、魅力のある方法だと感じました。

横田：私は、やりたいことを仕事に繋げることは、都市よりも地方のほうが実践しやすいように感じました。

大村：ほかにも、五か月間大阪のコンサルティング会社で勤めたあと、どぶろくが主力商品の会社の代表取締役社長に就いた人もいましたね。自分のやりたいことを追いかけている姿を見て、やりがいのある仕事を選びたいと私も思いました。



(2023年10月31日撮影)

#### ◎就職活動は、つらいことばかりではない

横田：最初に就職活動のどちらかというとながティブな側面を伺ったので、次はポジティブな側面を伺います。

河合：これからの人生を自分の手で見つけていける。自分が今までやってきたことが自分に返ってくるので、希望があります。

野口：就職で人生が決まってしまうわけではないが、就職活動は今後のキャリアを積むために、自分の人生の第一歩、スタートラインとして大事な活動だと思います。

横田：このプロジェクトに参加して、勤務経験のある人と関わることが大事だと知りました。就職活動は様々な社会経験のある人と関わる機会が増えるので、今後社会に出ていくうえで役立つ経験を積むことができます。就職活動は何をいつ始めるのが全く分からなかったけど、自分から始めるということが大切だと実感しました。

柏原：選択肢は無限にあるし、諦めずに挑戦することが大事だと思っています。

横田：まずは踏み出すことが大事ですね。

河合:みなさんは、インターン活動に関心はありますか。

横田:気持ちはあるんですけどね。なかなか。探す手が伸びないというか。

河合:その一歩ですよ。

島村:大学一回生、二回二年生だと、まだ大丈夫じゃないかなと思っちゃいますよね。本格的に活動を始めるのは三回生三年生からだと考えている人が多いと思います。

河合:何があったら、就職活動とかインターンに行きやすいかな。

太田:私たち一回生としては、経営学部で BP コースに入ったら三回生でインターンが授業に組み込まれているから、一、二回二年生の間はインターンについては調べなくてもいいかなと思っていました。

河合:他にも就職活動について、学部ならではの講義とかコースはありますか。

島村:理系は理系の会社に就職するのが定番なので…、そういうコースはあまり無いですね。

太田:経営学部二年生の横田さんは、BP コースのことは視野に入れていましたか

横田:一回生の時は、BP コースに所属して、三か月のインターンで経験を積もうとは思っていたんですけど、クラブ活動との両立が難しく、選抜が厳しいこともあって諦めました。諦めたことで「自分で調べてインターンに行かないと!」とはならず、そのままだらだらと過ごしてしまいましたね。やっぱりインターンはハードルが高くて…。インターンは何をするのかということも詳しく知らないの、周りからは「インターンに行かないといけないよ」とは言われのですが…。申し込めばすぐに参加できるものなのか、審査があるのか…。ほかの二年生のみなさんをご存知ですか。

柏原:いや、分からないですね。たとえば長期のインターンは、テスト期間は休めるのかどうかさえ分からない。

河合:一日だけのものもあれば、三か月のインターンもありますね。会社でそれぞれじゃないかな。



(2023年10月31日撮影)

### ◎今後のキャリア形成について

横田：就職活動とキャリア形成は異なるということを今回のプロジェクトで学んだけれど、人生において自分のキャリアを積んでいくことについてはどう思いますか。

河合：プロジェクトで転職する道についても知ったので、次のキャリアアップに繋がる会社に行きたいなどは思いました。

横田：私は先のこと過ぎて、考えられないというか。とりあえず、就職できたらいいかな、ということしかまだ考えられていない。

大村：私は横田さんと同じで、とりあえず卒業して、就職できたらいいかなと思っています。

福田愛芽：私は、結婚して子どもを産んでも、復帰できるような会社に就職できたらいいなと思います。

野口：最近だったら、育休制度のことが社会的にもよく話題になっていますね。でも制度を利用する人も、推進する会社も、現実的にはまだまだ少ないようです。だから、育休制度などが整備されている会社に就職したいです。

河合：上場企業は、育休取得率を発表しているのでも、そういうデータも活用したいですね。

草加：僕は、セカンドキャリアを考えています。たとえば都市圏で就職をして何年か勤務して、もし理想とのギャップを感じたときは、地方も視野に入れながら、それまでに身に着けたスキルを生かせる転職先を探したいです。



(2023年10月31日撮影)

### ◎就職活動に向き合うみなさんへ

横田：就職活動は面倒に感じたり、つらくなることもあるかもしれないけれど、色々な経験を積めるし、将来やっておいて損はないと思います。

柏原：就職活動をきっかけに、自己分析など自分について改めて知ることができるのは、良い経験になると思っています。

福田愛芽：就職活動を通していろんな人と出会って、新しい自分に出会えるかも知れないと思うと、少し楽しみかな。

島村：自分の知らない業界や企業を知っていくことが、自分のキャリア形成の一步ですね。

大村：いわゆる就職活動をして大手企業への就職をめざすだけでなく、世の中にはさまざまな

仕事の見つけ方があるので、多様な選択肢があることを知ってほしいです。

野口:そうですね。就職で人生がすべて決まるわけではないし、就職活動をきっかけに起業したり転職したりっていう道もあることを覚えておきたいです。

草加:三年生になったら、周りの人が就職活動を始めて、都市圏の企業に就職するという流れが自然と作られていくかもしれない。でも、一、二年生のときからキャリアの多様性を知る機会を増やして行ってほしいなと思います。

河合:不安になって考え込んでしまうときは、たとえば甲南大学のキャリアセンターのウェブサイトに、インターンの説明動画などが掲載されていたりするので、半歩でも具体的に動いてみるのがお勧めです。まずは興味のある分野から調べていくのも良いんじゃないかな。

太田:周りの人が就職活動に熱心だと焦ったり不安を感じるかもしれないですが、失敗を恐れすぎる必要はないと思います。もし多少思い通りに行かなかったとしても、働き方には多くの選択肢があって他の方法もあると知っていれば、必要以上に不安を感じなくて済むかも。ただし、早いうちから行動した方が可能性は広がりますね。

\* \* \*

甲南大生の皆さん、就職活動に対して不安な気持ちになることもあるかもしれませんが、きっとそれはあなただけではありません。一人では抱え込まずに、困った時はキャリアセンターや近くにいる先生方に相談してください。少しでもこの記事が、みなさんの就職活動に対する不安を減らすことにつながれば幸いです。

文・福田桃子(甲南大学 経営学部 二年次生)

横田桜咲(甲南大学 経営学部 二年次生)